５月３日（水）西村経済産業大臣　スピーチ

１．はじめに

　レスティノ会頭、ご紹介ありがとうございます。経済産業大臣の西村やすとしです。

　このパリで何を話せばよいものかと思いあぐね、まず Chat GPT に聞いてみました。一番有名なフランス人はと。すると「ナポレオン・ボナパルト」と返ってきました。ちなみに、フランスで最も有名な日本人を聞いてみたら「村上春樹」。政治家の名前は出てきません。私が聞いていようが、私とは言ってくれません。Chat GPT は極めて正直で優秀です。

　本日は、最も有名なフランス人が作った歴史あるパリ商工会議所にお招きいただいたことを大変光栄に思います。

　ナポレオンは、フランスの商工会議所制度を改革し、パリだけでなく、地域も含めた商工業の振興に力を入れた人でありました。

　そのナポレオンが、繁栄のインフラとして作ったのはフランス民法典。いわゆる「ナポレオン法典」です。法の支配こそが平和と繁栄の基盤。この基本的価値は今に受け継がれています。

　しかし、今世界に目を向けると、パンデミックやウクライナ戦争をきっかけとして、様々なリスクに直面しています。エネルギー危機、食料危機、気候変動、サプライチェーンの脆弱性。さらに、保護主義的な動きも見られます。世界は今大きな岐路にたっている、そういっても過言ではありません。

　本日は、この難しい時代を切り抜けていくための方策を、歴史を振り返りながら、私の考えを示したいと思います。

２．歴史の針を戻してはならない

100 年前も世界は大きな岐路にありました。第一次世界大戦、スペイン風邪の流行。荒廃した欧州を再興するために、自由貿易の道を進むのか、もしくはブロック化へと進むのか。

その時、オーストリアの若き青年が出した答えは「パン・ヨーロッパ主義」。欧州を一つにするアイディアでありました。クーデンホーフ・カレルギー。ヨーロッパ人の父と日本人の母を持つこの若者はこう述べています、「我々は国家的観念でものを考えない」。欧州大の視野を持った彼の考えは、当時パン・ヨーロッパ運動を巻き起こしました。

彼の掲げた理想が正しかったことは、欧州統合の歴史をみれば明らかです。その欧州と日本が力を合わせて GATT・WTO 体制のもと、グローバルな自由貿易を推進し、世界の経済成長を牽引してきました。その基盤は、自由・民主主義・人権・法の支配。基本的価値を共有していることです。

カレルギーは述べます、「ヨーロッパ人とアジア人の外見は異なるが、価値については同等である。」

しかし、基本的価値に基づいた世界秩序はいま大きな挑戦を受けています。

ロシアによるウクライナ侵略。日本から１万キロ近く離れたこの地で起きたことも、私たちは看過しません。祖国を守り、愛する家族を守るために勇敢に戦うウクライナの人々を、日本は全力でこれからも支援し

ていきます。基本的な価値の重要性に距離は関係ありません。今日のウクライナは明日のアジアかもしれない。

　そうした事態が起きないことが最善なのは言うまでもありません。しかし、万が一、起きた時には、欧州の皆さんもきっとアジアに連帯を示してくれる、私はそう確信しています。

　さらには経済的威圧。過度な相互依存がもたらすリスクを我々は実感しています。日本は 2010 年に中国によるレアアースの禁輸措置に直面しました。また、ロシアからのノルドストリームのガス供給停止は、欧州の企業活動、人々の生活に大きな足かせとなっています。

　「世界は新冷戦に入るのではないか。」そうした意見すらあります。かつてチャーチルが「鉄のカーテンが降ろされた」と評したように。

　しかし私はそう思いません。そうすべきでもありません。

　時代の岐路にたつ今だからこそ、ブロック化は悲劇を生み出す、という歴史の教訓を思い起こし、賢明な道を探る必要があります。あのナポレオンでさえ、英国に対する大陸封鎖は失敗に終わりました。ブロック化は持続可能な政策ではないのです。まして、第二次大戦のことを思い起こせば世界に平和をもたらすものではありません。

　私は、今後も、自由貿易こそが世界の経済成長を牽引すると考えます。ただし、私の考える自由貿易は、完全なる「レッセフェール」ではありません。秩序のもと、参加者それぞれがリスクへの備えを十分にしながら、活動する必要があります。今求められている課題は、自由貿易に伴うリスクをどのように低減させていくかです。

３．リスク低減に向けて

マクロン大統領やフォンデアライエン委員長も度々言及していますが、完全なデカップリングはもはや不可能です。私たちが問題とすべきは、透明性を欠くシステムや、威圧的な外交・安全保障政策です。強制的な技術移転や貿易歪曲的な措置によって、我々の産業基盤が犠牲となることは、これ以上看過できません。技術を不法に窃取し、軍事目的に活用するようなやり方も、決して容認できません。

大きなマーケットやスキルのある人材を活かすにあたっても、こうしたリスクを十分に管理することが大前提です。そのためにも、政府が道筋を示し、国・地域同士の具体的な連携を進めていく必要があります。またビジネス界も意識を変えていかないといけません。いわば、alliance for de-risking です。

同志国が分断されるような事態は、それこそ権威主義国の思うつぼだからです。日本、フランスを始めとする欧州、米国といった同志国間での連携が今まさに試されています。そのため、我々の目指すべき道として次の４点を強調します。

（エネルギー安全保障の確保）

第一に、エネルギーは私たちの経済活動にとって欠くことのできない基盤です。ロシアによるウクライナ侵略以降、世界は特定国にエネルギー源を依存するリスクを目の当たりにしました。エネルギーの安全保障の確保とエネルギー移行の推進の両立は喫緊の課題です。再エネ・省エネの推進に加えて、天然ガス、原子力の活用が重要な論点となります。

特に原子力について、我が国は原子力の安全性向上に向けて、次世代革新炉の開発・建設に取り組むことを発表しました。次世代革新炉の研究開発の推進、強靭なサプライチェーンの構築、原子力安全・核セキュリティ確保に向けて、フランスを始めとする同志国でよく連携していきます。まさにこうした観点から、リュナシェ大臣と、原子力協力に関する共同声明を発出しました。フランスとともに高速炉の開発を進めていきます。

（重要新興技術の育成と保護）

第二に、特定の国に過度に依存することのリスクはエネルギー以外にも多く存在します。半導体やバイオ、量子、ロボット、グリーンなど重要新興技術について、日本と欧州が力を合わせ、グローバルなイノベーションを牽引していくことが重要です。

フランスは世界有数のスタートアップのエコシステムを有しています。今回、日本から 15 社のスタートアップ企業とともにフランスにまいりました。

日本は 90 年代のバブル崩壊後、長年デフレに苦しんできました。企業は投資を恐れ、若者が就職難に苦しむ時代がありました。しかし、今、日本の景色は一変しました。アベノミクスによって日本経済は再び力強い成長軌道へ立ち戻った、まさに覚醒の時を迎えています。

そして今、日本企業は新たな分野への投資を加速させています。スタートアップを起こす若者も増えています。日本がしばらく忘れていたアニマルスピリットを取り戻そうとしています。

今日、私と一緒に来ているのは、グリーンやロボティクス、スペース、フードテック等、最先端技術を持つ企業の方々です。例えば、シャワーの水を浄化し再利用可能にする技術、ミドリムシでジェット燃料を作る技術、AI で行政サービスを使いやすくする技術、ドローンを公衆衛生インフラに活用する技術等、持続可能な世界に向けて未来のイノベーションを担う企業の皆さんにぜひ拍手を送っていただければ幸いです。ありがとうございます。

「我々は人々を結びつける。」これは欧州連合の父たるジャン・モネの言葉です。人々のつながりこそが欧州の力の源泉であり、世界中で新たなイノベーションを生み出すエンジンである。日仏のネットワーキングが新たな時代を切り開くきっかけとなることを期待します。

二日前、ベルギーで IMEC を訪問しました。95 カ国以上の国々から 5000 人以上の研究者が所属する豊かな人材を力に、次世代の開発が進んでいることを感じました。トヨタやソニーなど日本を代表する民間企業が力を結集し、創設されたラピダス社とともに、次世代半導体の設計や基盤確立に向けて協力を加速していきます。

人と人、企業と企業を結びつけ、日米欧で連携し、重要新興技術の育成・保護に取り組みます。

（サプライチェーンの強靭化・経済的威圧への対抗）

第三に、技術と並んでもう一つの柱はサプライチェーンの強靭化です。コロナという未知のウイルスが世界を覆ったとき、全世界でサプライチェーンが大混乱した記憶は、今なお鮮明です。当時、コロナ対応の担当大臣であった私は、その対応に忙殺されました。

中でも、鉱物資源供給の多元化は日本と欧州が直面する大きな課題です。先月開催されたＧ７気候・エネルギー・環境大臣会合でも、クリーンエネルギー移行と経済安全保障の両立に向け、Ｇ７各国が協調して取り組むことに合意しました。

上中流の鉱物資源開発に加えて、私たちは、都市鉱山とも呼ばれる、身の回りの鉱物資源にも、もっと注目すべきです。廃パソコンなどのいわゆるE-Wasteには、金銀銅のほか、レアメタルなど重要鉱物がたくさん含まれます。その選別やリサイクルに日本は高い技術を有しており、欧州や米国とも協力し、リサイクルネットワークを構築したいと考えています。

ただ、サプライチェーン強靭化の実現には、時間がかかります。今、大きな供給シェアを持つ国が、明日、供給をストップさせるかもしれません。レアアースの輸出規制によって、我が国も苦しんだ過去があります。

大きなマーケットを持つ国が、特定の国や地域からの商品輸入を禁止するかもしれない。中国による台湾パイナップル輸入停止や、豪州ワインの輸入停止、さらにリトアニアの牛肉の輸入停止など、経済的な威圧は、今そこにある、現実の危機です。

日本やフランスも例外ではありません。

信頼できるパートナーでサプライチェーンを構築。更に、国際協調のもと集団的な対応をしていくことが重要です。

（グローバルサウスでの連携）

最後に、こうした連携は、日本や欧州といった先進国に閉じてはいけません。ロシアによるウクライナ侵略後、エネルギーや食料価格の高騰で最も被害を受けたのは我々ではありません、アジアやアフリカの多くの国々です。更に、今後の人口・経済成長ポテンシャルを考えれば、国際秩序におけるインド等の重要性も増していきます。

グローバルサウスが、持続可能で強靭な経済成長を実現できるよう、後押ししていくことが、我々の責務です。

自由で開かれたインド太平洋。この明確なビジョンこそ、私たちが目指す新たな世界です。太平洋からインド洋へと至る、この広大な海と空は、自由で、誰にでも開かれたものであり、国の大小にかかわらず、すべての国に恩恵をもたらすものでなければなりません。

欧州のグローバルゲートウェイ戦略もまさにこうした考えに呼応するものと考えます。基本的価値を共有する日欧で、ともにグローバルサウスとの連携を深めていきましょう。動きは既に始まっています。例えば、日本とフランスの企業や、EBRD、NEXI、JBICが協力する形で、エジプトでの陸上風力の建設が進んでいます。2025年には紅海の風を使って、80万以上のエジプトの家々に対してクリーンな電力を供給できるようになるでしょう。

インフラだけではありません。経済活動の土台となる自由で公正な通商ルールの推進も重要です。経済安全保障を巡って、新たな課題が次々と生まれています、ですが、保護主義に陥るようなことは決してあってはならない。過度な補助金競争による囲い込みや、経済のブロック化といった事態も避けなければなりません。

課題は山積しています。信頼に基づく同志国で共に課題に立ち向かっていきましょう。

終わりに

「我々の時代に起きた悲劇の結果、我々は前より賢明になった。」”Les événements tragiques que nous avons vécus, nous ont peut-être rendus plus sages.”ジャン・モネは欧州連合の設立についてそう回顧しています。

ちょうど 100 年前にカレルギーが唱えたパン・ヨーロッパ主義は欧州の平和と繁栄の大きな基盤となりました。

今から 100 年後の私たちの子孫は、私たちの今の行動をどう評価するでしょうか。

保護主義・ブロック経済に陥るという歴史の過ちを繰り返してはなりません。様々なリスクをマネージしながら、自由貿易という旗を一層高く掲げていく必要があります。

「あのとき我々は前より賢明になった。」そう評価してもらえるよう、最善を尽くしましょう。フランスと日本、欧州と日本が、手を携えて、持続可能で強靭な未来を作り上げていきましょう。

10 月のスタッド・ド・フランスはきっと多いに盛り上がることでしょう。年が明ければ、セーヌ川に大きな 5 つの輪が架かります。私たちの前には、明るい未来が広がっている。そう信じて共に歩みを進めてまいりましょう。

そのことを申し上げ、私のスピーチを締めくくりたいと思います。
ありがとうございました。